

## 今年度の特記事項

1. 新型コロナウイルス感染症の影響の中、府中市のWithコロナの方針により、感染症対策を継続しながらも、各事業の利用制限を徐々に緩和していく1年であった。また、子育て世代包括支援センターみらいが7月にオープンするに伴って、これまで同じエリアで相談事業を行っていた市の相談部門と事務部門がみらいに移転し、法人事業のみとなった。年度の前半は、移転に向けての課題の整理を行い、後半は連携しながら事業に取り組み、安定した相談事業を継続した。

2. 交流ひろばは、6/6より予約制での利用を解除した。また、7/23から、それまでの利用時間10時～12時・14時～16時を、10時～12時30分・14時～16時30分に変更した。市民限定での利用は継続したが、年間延べ利用者数は保護者を含め前年度より33,717名増加した52,203名であった。感染防止対策の入館時の体調チェックと検温、室内の換気と玩具の消毒、館内清掃と消毒は年間を通して継続した。また、年間通じて親子で楽しんでもらえるよう取り組んだ。季節にちなんだ制作コーナーの設置や手形や足形をとっての誕生カードのプレゼント等を行った。12月からは、週に1回その場にいる利用親子を対象に「からだを動かして楽しもう」の時間を設定して、自由に参加するプログラムを実施し、好評のうち継続している。

3. リフレッシュ保育はコロナ禍になり10時～13時・14時～17時に利用時間を制限していたが、3/17より、10時～17時の通常の時間帯に戻した。リフレッシュ保育では、年間を通して利用児・登録児共に増加した。特に3月は200名を超える利用があった。年間延べ利用児数は1,558名で、前年度より661名増加している。

4. 府中市相談部門の移転に伴い、前年度の打ち合わせをもとに、設備や事務関係、相談業務についての役割分担を確認した。ほぼ、移転前と変わらぬ動きになったが、防災上の動きや連携については引き続き課題になっている。また、相談業務は安定して運営されているが、移転後1回市の担当者との話し合いをもち、役割分担等詳細について確認した。

5. 府中市からの新規受託事業である多胎児交流会「そらまめクラブ」は予定通り2か月に1回、第2土曜日に全6回開催した。多胎児家庭の交流を目的に、0～3歳児とその親を対象に行った。参加者は延べ32組124名であった。交流会には、回によって保健師や多胎の先輩ママを招き、必要な情報や体験を共有し育児に生かしてもらうことができた。

また、3月13日には、「多胎児家庭への支援」をテーマに、関東多胎ネット理事・中川美織氏を招き職員研修を行った。たっち休館日でもあり、ほぼ全員の職員32名が出席し、しらとり職員4名も含め、多胎児家庭への理解を深めた。

6. コロナ禍で休止していたボランティア定例会を再開した。月に1回、登録ボランティア対象にひろばの制作物の準備等をお願いした。再開は喜ばれ、1年間7回開催し延べ20名が参加した。